

平成 25 年 3 月 1 8 日

# 南 の 風 3 3

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

WJBLファイナル3戦を選手と一緒に観てきました。久しぶりの代々木第2体育館でした。やっぱり代々木第2は雰囲気があります。ミニバスから全日本の選手、すべてが憧れるケイジャーの聖地です。

JXが2戦先勝で迎えた第3戦です。ここでJXが勝てば、スウィープで優勝が決まります。簡単に戦評風を書いて見ます。

第1Pは、JXが立ち上がりから3Pが決まり10対3でリードする。トヨタはタイムアウトの後、ディフェンスをゾーンに変え、流れを断ち切ろうとする。3Pも決まり流れがトヨタに。ここでJXもタイムアウトを取る。ゲームは一進一退となり、25対23でJXがリードして1Pが終了。

第2Pは、ドライブインやスチールからのバスカンなどで27対30でトヨタが逆転する。JXはゴール下ショットで応戦し互いに譲らない。その後トヨタは1対1のドライブインからの合わせやミドルショットで加点する。JXはやや足が止まり、ガードからピンポイントパスが通らない。単発のゴール下が決まるだけとなる。35対40とトヨタがリードで前半終了。

第3Pは、立ち上がりJXがゴール下ショットを続けて決め、40対40の同点とする。ドライブインも決まり、42対40とリードする。トヨタは2対2の合わせからノーマークをつくり、残り4分を残し46対46の同点となる。さらに、トヨタは2対2の合わせと、オフェンスリバウンドを頑張り2分少しを残し、46対52とリードを広げる。JXは約4分ノーゴールとなる。その後JXはリバウンドショットとドライブインで追い上げ、52対54とトヨタリードで終了

第4Pは、JXはバスカンを含む連続ゴールで、開始2分57対55とリードを奪う。トヨタはメンバーを入れ替え、守りを固めJXの得点を止め、連続3Pが決まり59対61と再びトヨタがリード。JXもゴール下を中心に得点するが、トヨタは冷静な3Pで加点する。残り2分65対68とリードを保つ。その後JXはファールゲームを仕掛けるが、トヨタは確実にフリースローを決め、65対73でトヨタが勝利した。

ゲームを観戦しての一番の印象は、トヨタが3Pを打ち続けたことです。8-28（成功数-試投数）と決定率は28.6%とすばらしく高くはないのですが、「私たちは3Pを中心に戦う。」というメッセージがゲーム全体を通して伝わってきました。

続いての印象は、2対2のアウトサイドスクリーンを中心にした攻めです。ボールマンのアウトサイドでハンドオフパスをもらって、ディフェンスの状況によってドライブイン、もしくはピックオフするといったプレイが有効だったことです。JXのディフェンスがアウトサイドスクリーンに引っかかったり、遅れたりするケースが多かったです。また、ヘルプがきた場合は、逆サイドにスペースが空き、ローテーションが間に合わずミドルショットや3Pをノーマークで打っていました。

そして、もう一つ付け加えたいのがオフェンスリバウンドの跳びこみです。トータル（OFFリバ）13と、とび抜けて多くはないのですが、数字に表れないチャレンジがたくさんありました。「負ければ終わり」の状況で、チーム全体で「腹をくくった」感じでした。ディフェンスは次号に書きます。